

主婦の元気は  
ニッポンの元気!

主婦  
休み  
応援!

# 「主婦休みの日」と 家事の負担感に関するアンケート調査



2020.09

サンケイリビング新聞社 編集部

リビング暮らしHOW研究所

主婦休みの日

検索

取り組み事例など <http://www.sankeiliving.co.jp/shufuyasumi/>

# 主婦休みの日とは？

「主婦休みの日」は、2009年に日本記念日協会に登録されています  
冬 = 1月25日、春 = 5月25日、秋 = 9月25日

家事は365日休みのない仕事。きれいじゃなくても、一息つきたい時や、ありがたいの一言が欲しくなるときもあります。日々がんばるためには、休みだって必要。「主婦休みの日」は、つい忘れがちな、家庭を心地よく保つ「家事」をする人の価値を思い出し、感謝し、そして日頃家事をがんばる人が「主婦」の役割から少し自由になって一息つける日があればいいな、という思いから、サンケイリビング新聞社が日本記念日協会に登録しました。

「そんなこと言われても休めない！」という人もまだ多いですが、だからこそ「主婦休みの日」。この日をきっかけに、「うちの主婦（主夫）にもたまにはリフレッシュしてもらおう」「今日はリフレッシュしよう」と思う人が増えることを目指し、情報発信を続けています。

※主婦とは、主夫など含め、普段から家事を主に担当している人と考えています  
最近では夫婦どちらも「主婦と主夫」も、あるかもしれませんね

## 【なぜ「この日」なの？】

- ★ 家族が忙しい長いお休みの後  
(年末年始、ゴールデンウィーク、夏休み)
- ★ 主婦が一息つける、お給料日のあと
- ★ 覚えやすい、忘れない「25日」

主婦休みのキャラクター イクコ (1・9・5) とニコ (2・5)  
紙面で読者から名前を募集し決定。1月・5月・9月と25日に由来



# 「主婦休みの日」と家事の負担感に関するアンケート調査

家庭の外で働く女性が増え続け、また新型コロナウイルス感染の拡大による「ステイホーム」推奨もあり、家事への負担感が増していると推測される2020年夏、既婚女性を中心としたアンケート調査を実施しました。

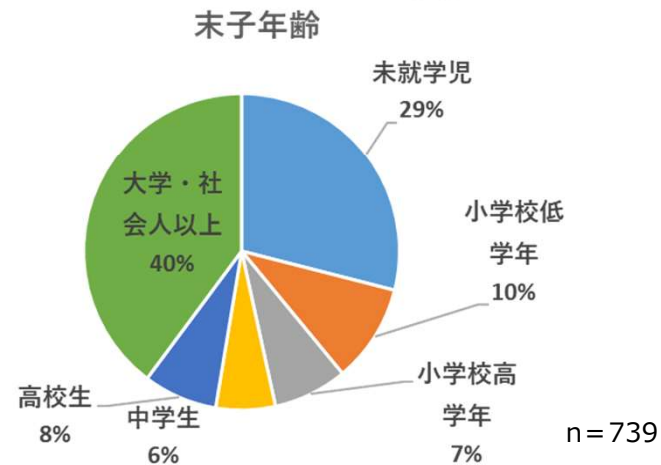
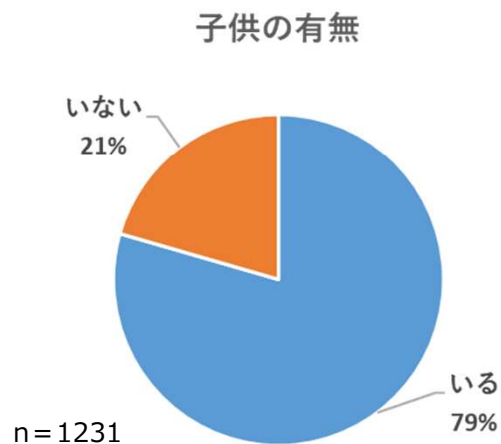
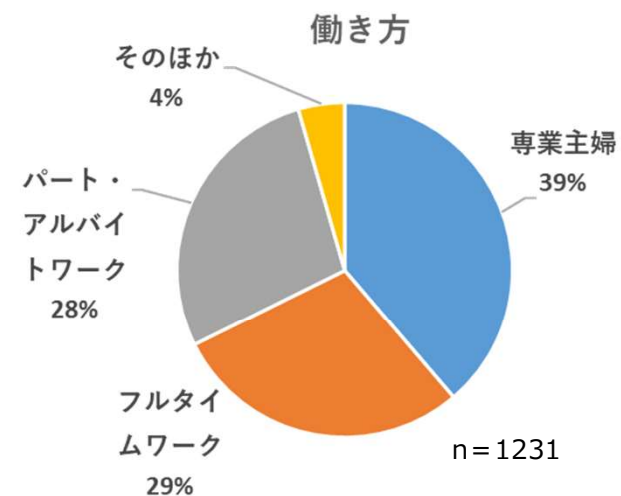
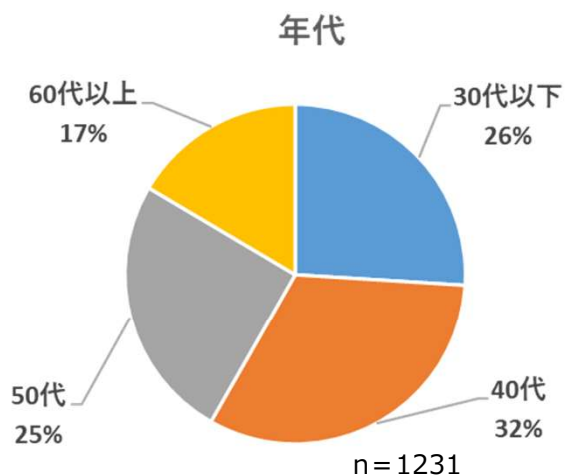
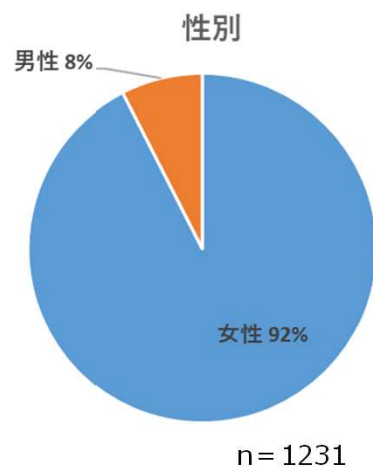
## 【調査概要】

調査期間：2020年8月6日～16日／調査方法：「リビングWeb」会員へのWEBアンケート調査／調査対象：既婚男女  
エリア：全国／有効回答数：1231



## 【回答者プロフィール】

※対象は既婚者のみ



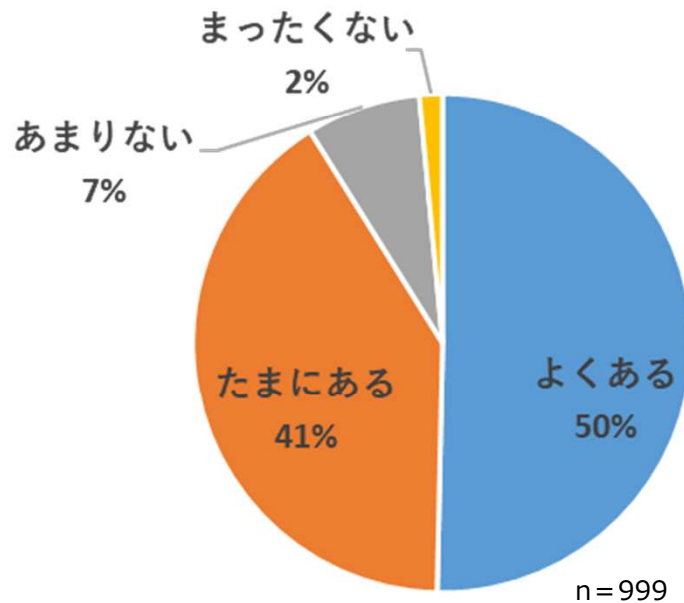
## 【「主婦休み」のニーズ】

「主婦という役割をひととき離れたい」「主婦休みの日のように家事の役割をお休みする日が必要」と考える人が大多数を占めています。

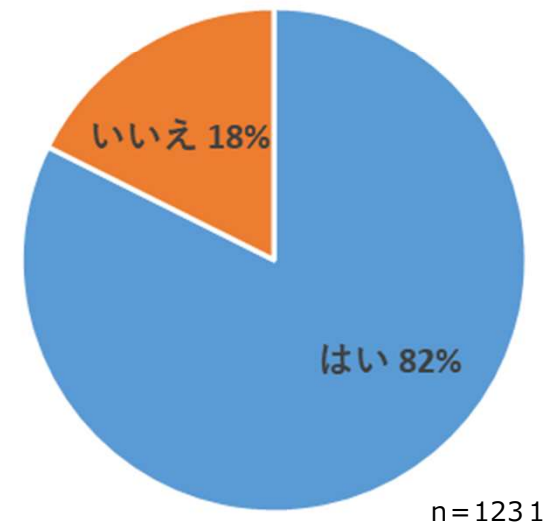
主婦・家事の担い手という役割を「たまには休みたい」という気持ちは、多くの人の中にあります。



主婦・主夫という役割をひととき離れて  
リフレッシュしたいと思ったことはありますか



「主婦休みの日」のように、  
家事の役割をお休みする日が必要だと思いますか



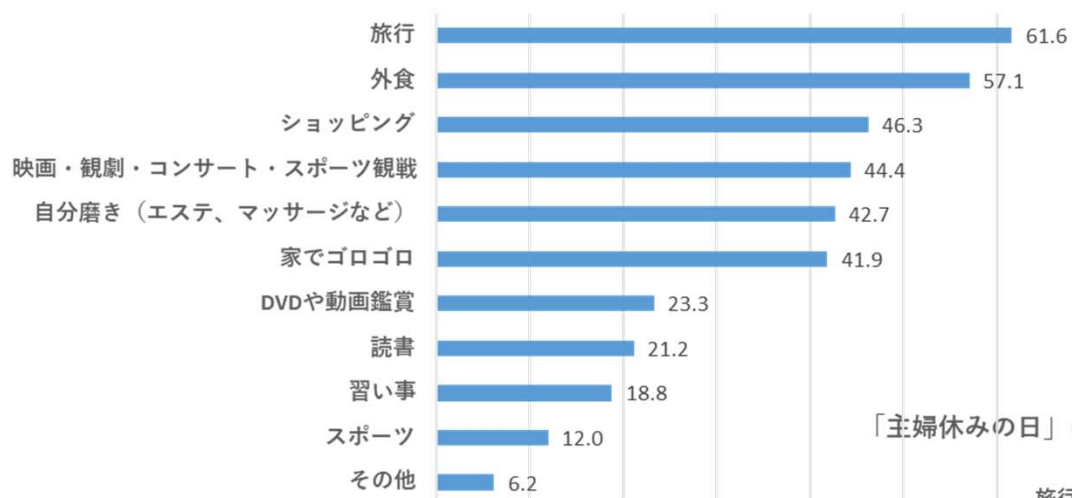
## 【「主婦休み」に、したいこと・実際にしたこと】

「主婦休み」が取れたらしたいことは「旅行」「外食」が過半数を超え上位に。

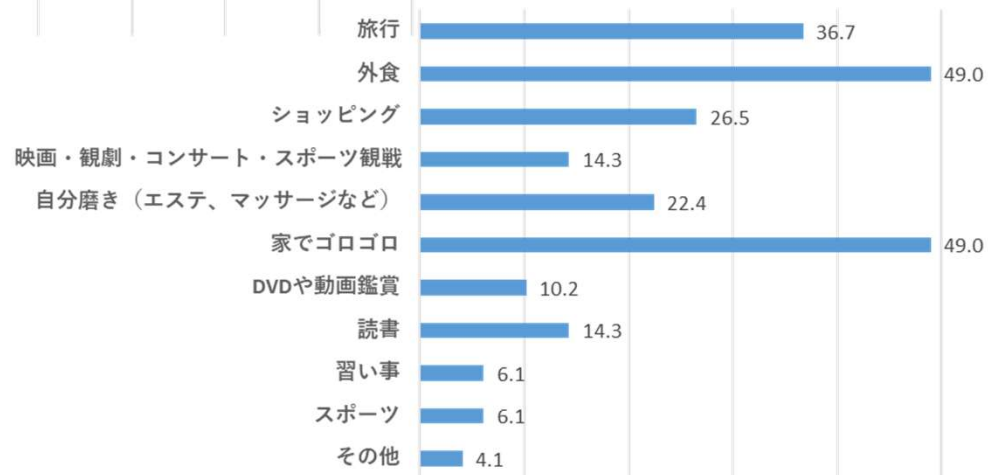
ただし実際に主婦休みを取ったことのある人が「したこと」は、「家でゴロゴロ」と「外食」がトップ2。たくさんのお金はかけず、近場&家の中でゆっくり・のんびりが、現実的な過ごし方になっています。



「主婦休み」ができれば、リフレッシュのためにしたいこと n=910



「主婦休みの日」に意識して休んだことがある人がしたこと n=94



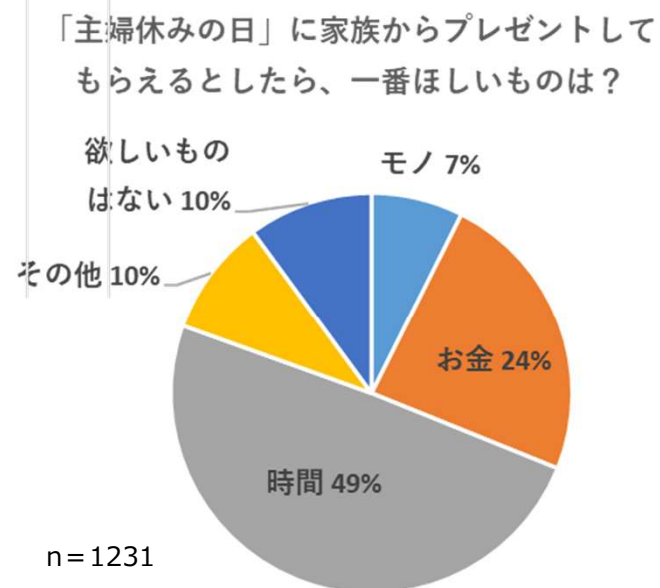
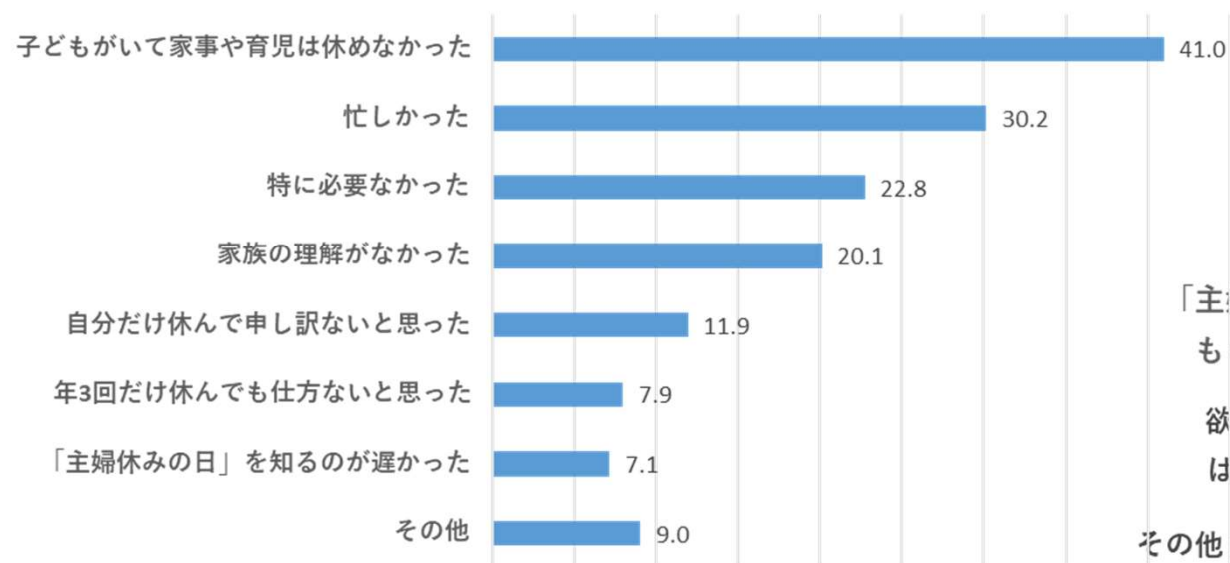
## 【主婦休みの日に休めない理由、プレゼントしてほしいもの】

「主婦休みの日」があると知っていたのに休めなかった人の理由は「子どもの世話のため」「忙しかった」。「主婦休みの日」に家族がプレゼントしてくれるなら…ほしいのは「時間」という人が約半数。

たまには主婦の役割を休みたい、でも休めない。だれか時間をプレゼントして…そんな気持ちが浮かびます。



「主婦休みの日」は知っていたが休めなかった人の理由 n=378

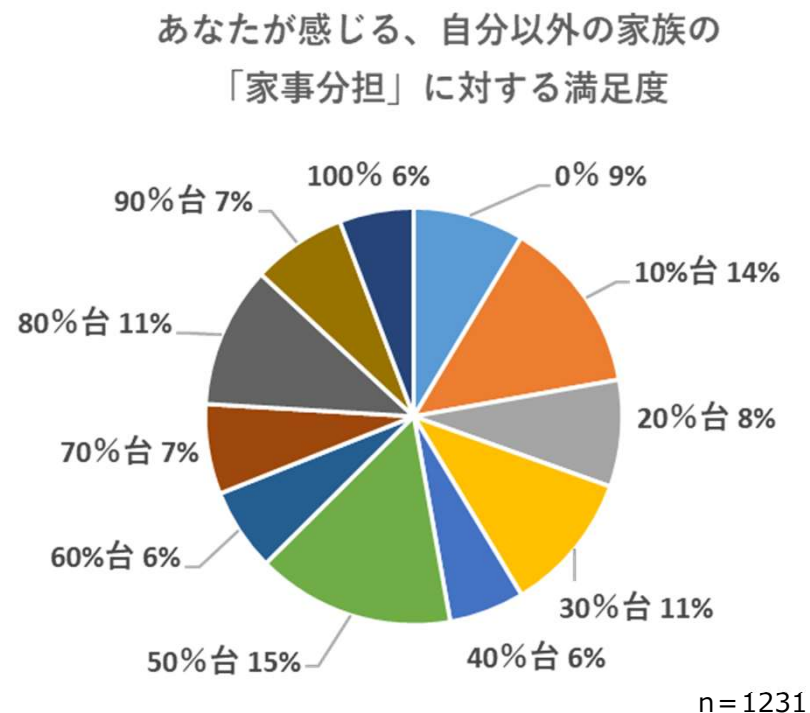
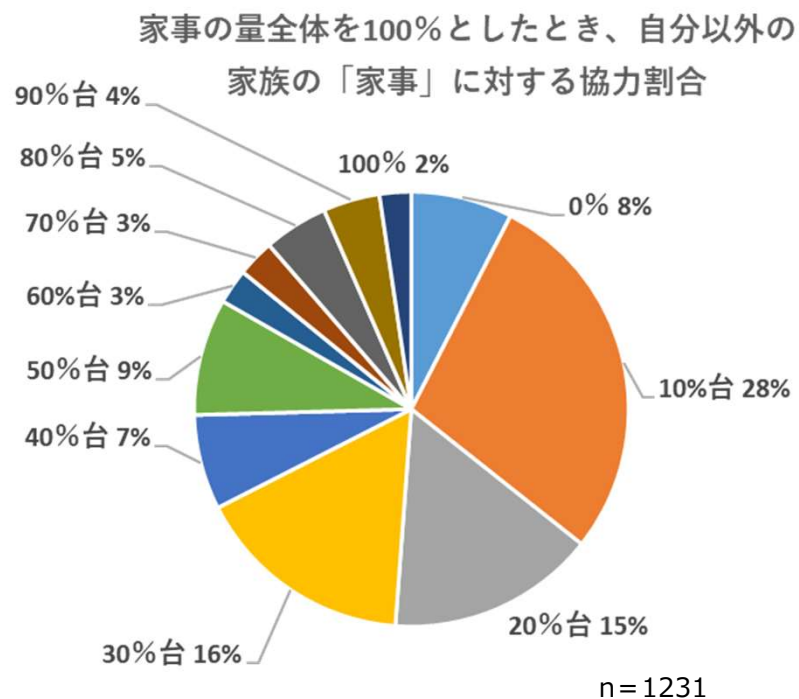




## 【家事の分担割合と、家事分担についての満足度】

家庭全体の「家事量」に対して、自分以外の家族の協力は0%・10%台・20%台が、合わせて半数。  
 家族で家事の分担が進んでいわれる中でも、まだ「家事は主婦の肩にかかっている」という状況の様子。

しかし「家事分担」への満足度は、結果が非常に分散しました。実際の協力割合と、その状況に対する満足度は、イコールとは言えないようです。



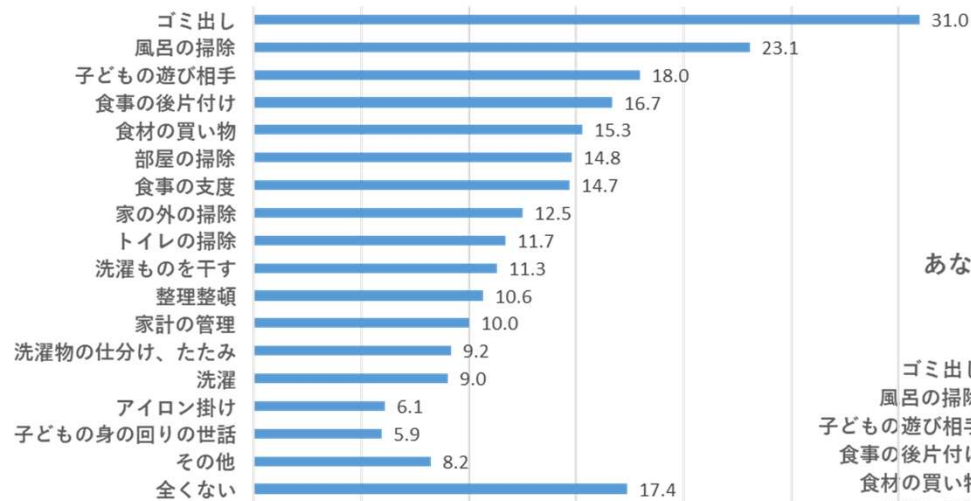
## 【評価している「夫の家事」は？】

家事に積極的な夫も増えていると言われますが、主婦から見た配偶者（夫）の家事で、「これは優れている」と評価されるのは、伝統的（？）に「夫の家事」とされる「ゴミ出し」「風呂掃除」が、やはりトップ2。

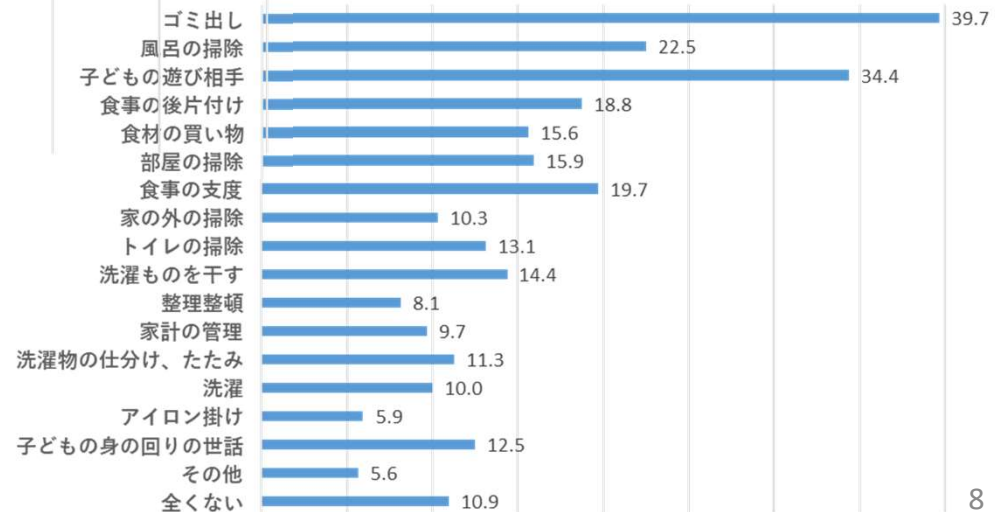
30代以下の若い世代では「子どもの遊び相手」としての評価は高いっぽい、「子どもの身の回りの世話」は低め。ただし「食事作り」「食事の後片付け」は全体より評価が上がり、分担が進んでいることがうかがえます。



あなたの夫（配偶者）が「これは優れている」と思う家事は？ n=1231  
(全体)



あなたの夫（配偶者）が「これは優れている」と思う家事は？ n=320  
(30代以下)





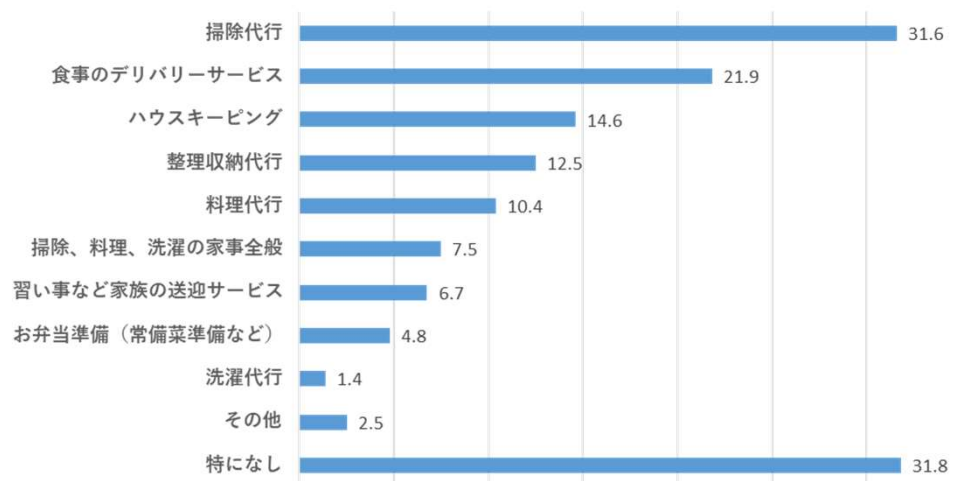
## 【有償の家事サービスへのニーズ】

最近種類も増えてきた「家事代行サービス」。時間がほしい主婦へのニーズは、「掃除代行」がトップ。ただし「特になし」も3割いて、まだ「有料で家事をしてもらう」ことに心が動かない人も目立ちます。

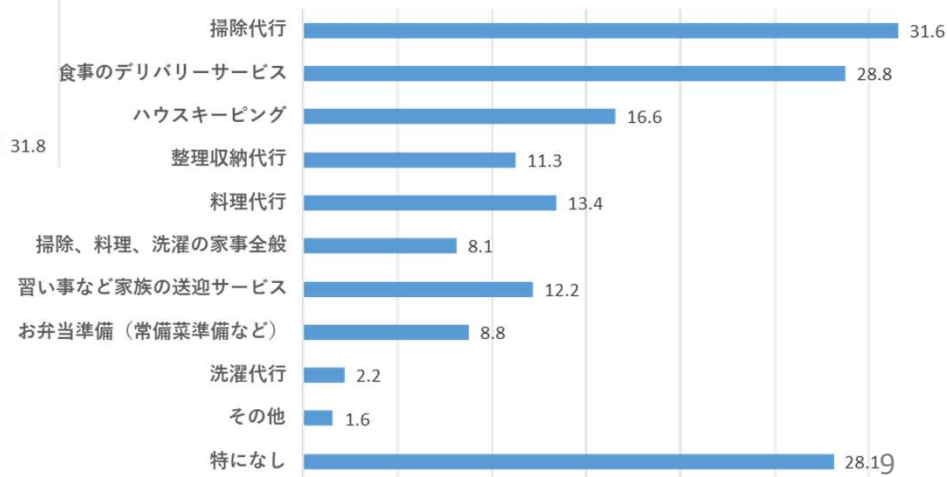
しかし、30代以下の若い世代を見ると「食事のデリバリー」「料理代行」「家族の送迎」「お弁当準備」など、全般にニーズの高まりが見られます。子育て期に必要な迫られ家事サービスを利用した人が増えるに従い、今後の利用者増が見込まれます。



お金を出して使ってもよいと思う、家事に関するサービス n=1231  
(全体)



お金を出して使ってもよいと思う、家事に関するサービス n=320  
(30代以下)



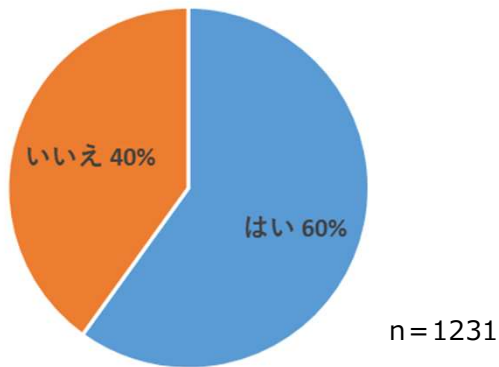
## 【家事の苦勞への理解・対価】

夫や家族が、「主婦」の家事の苦勞を分かってれていると思うのは60%。やや優勢とはいえ、どちらが大勢を占めると言い難い状況。

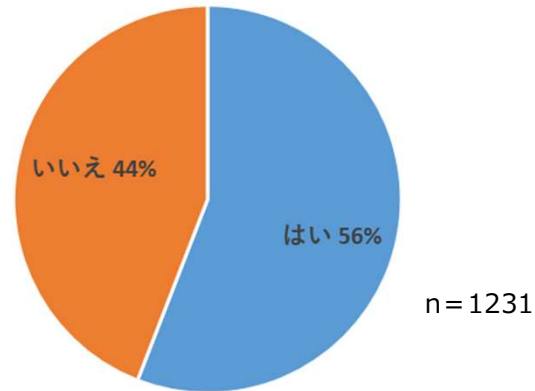
一時期「家事も金銭的に評価してほしい」というような声も報道を賑わしましたが、これも二分されています。実は、「分かってくれない」「対価がほしい」と一番思っているのは「パート・アルバイト」主婦層。時間のなさは感じるのに、家族から家事の協力もしてもらいにくいという、微妙な状況がうかがえます。



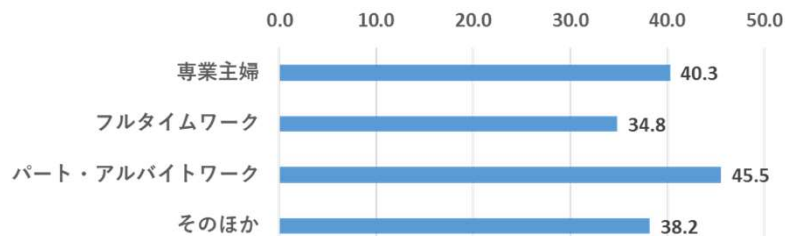
配偶者や家族は、あなたの家事の苦勞を分かってくれている？



家事に対する対価（給料）がほしいと思いますか

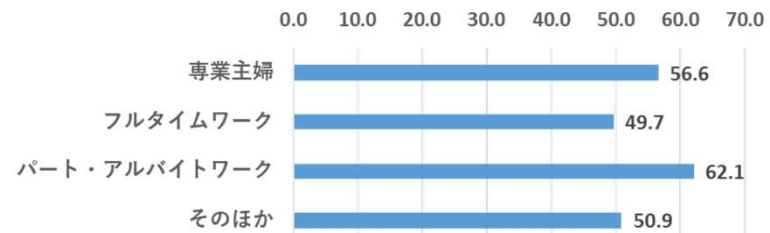


家族が家事の苦勞を「分かってくれない」と思う人（働き方別）



n=1231

家事に対する対価（給料）がほしいと思う人（働き方別）



n=1231



## 今が過渡期？ 「主婦」の中でも分散する家事負担の意識 共通するのは「たまには家事を休みたい、けど…」という思い

9月25日の「主婦休みの日」を契機に実施した本アンケート。

全体として「結果が割れた」設問が多く、さらに言えば、年代（30代以上と以下）、働き方（特にフルタイムとパート・アルバイト）では少し差が出たり、「主婦」といいながらも、意識は一枚岩でない、分散傾向が見られました。働き方、家族の在り方の多様化が続く中で、何かの「大多数」や「正解」はなく、それぞれの家庭で一番良いバランスと納得感を探る期間が続きそうです。

ただ若い世代はフルタイムで働き続ける人が増えていくのは確実で、全般に家事の担い手は分散し、有償サービスの活用も増え、「自分だけが…」という思いは減っていく傾向に向かうでしょう。

しかし「現時点」で言えば、「たまには家事を休んでリフレッシュできる時間が必要」という思いは、主婦全体に共通することです。

最近、「主婦休みの日」をテーマにツイートしてくださる人が増え、それに対して「そんなこと言われても無理！」「子どもがいたら絶対休めない」という反応や、「主婦って年に3日しか休んじゃいけないの？どんだけブラック！」という、相反するような反応も多くみられます。

どちらの反応も、それぞれの状況や思いに「主婦休みの日」という言葉が、ポチャッと小石を投げ込み、心にさざ波を立てたのでしょう。ストレスの多い時代、「休みたい」という気持ちは誰にとっても切実です。

「主婦休みの日」がなくても、だれもがたまには「役割」を休んで伸び伸びとリフレッシュできる日が、自分の都合で決められる。家族もそれを納得・応援してくれる。そんな状況を目指して、「主婦休みの日」を発信していきます。